

事例4 探究的な学習【まとめ・表現】

まとめ・表現の学習活動を通して、主体的に学び合い、高め合う事例

- 学年 第3学年
- 探究課題 防災のための安全な地域づくりとその取組（防災）
- 主な事例のポイント ※それぞれの実践例にて紹介
 - ①自助の視点 命を守る「3つのポーズ」「3つのない」を知り、自ら危険箇所に気付き考え行動し、最適な退避行動についての「まとめ・表現」を行う。
 - ②自助の視点 家庭の防災を見直し、ICT端末を使って調べ、グループワークで共有・発表する「まとめ・表現」を行う。
 - ③共助の視点 地域の防災や災害時の助け合いについて、避難所運営4コマ漫画を作成し、発表する活動を通して高め合うための「まとめ・表現」を行う。
 - ④オンラインで全国の他地域の学校と交流し、地域による違いを発表し、互いに学び高め合うための「まとめ・表現」を行う。

1 単元名 防災意識を高め、自分と身近な人の命を守るための安全な行動について考えよう。

2 単元の目標

被災状況を想像し、今の自分にできることを見つけて行動することの大切さを学ぶ活動を通して、地域の防災や災害時の助け合いの重要性に気付き、「自助」としてどのように行動するか、「共助」として助け合うために何をすべきか考えるとともに、防災意識を高め、防災のために主体的に考え行動できるようにする。

3 生徒の実態（略）

4 教材について

探究課題は「防災のための安全な地域づくりとその取組」である。本校は、同学区内の小学校と連携して小中9年間を通した防災教育カリキュラムの作成と実践に取り組んでいる。また、『生きる力』を育む防災教育の展開（H25.3 文部科学省）に示されている、「中学校段階における防災教育の目標」の「日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒」を育成している。

具体的には、防災意識アンケートを実施・分析して生徒の実態を把握し、生徒の自助能力、家庭の防災意識、被災に対する想像力を課題として取り上げ、テーマ学習に取り組むとともに、シヨート訓練とも関連付けて改善を図った。テーマ学習では、「自助」として家庭の防災、「共助」として避難所運営について学び、防災教育の集大成として、防災小説の執筆と他県中学校とのオンライン発表会を行い、被災状況を想像し、今の自分にできることを見つけて行動することの大切さを学ぶ活動を通して、主体的に行動できる生徒を育成していきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自助や共助の重要性を認識し、防災について理解を深めている。	①防災を自分事として捉え、自助や共助の視点で課題を設定し、解決に向けた見通しをもっている。	①状況に応じた避難行動について自ら適切に判断し、行動しようとしている。
②防災上の諸課題について解決するための正しい知識および技能を身に付け、実践している。	②防災についての情報を収集し、課題の解決に向けて視野を広げ、考えている。	②発表活動を通して、自分とは違う視点や意見を受け入れながら、協働して学び合おうとしている。
③災害時の適切な行動や助け合いに関する取組についての理解は、探究的に学	③収集した情報を比較しながら整理・分析し、課題の解決に向けて考えている。	③学習活動を通して、自分の行動を振り返り、命を守るためのよりよい行動につい

習してきた成果であることに気付いている。	④防災上の諸課題に対して、自分の考えをまとめ、工夫して表現している。	て考え実践しようとしている。
----------------------	------------------------------------	----------------

6 単元の指導計画と評価計画 (35 時間扱い)

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・生徒の思考	・指導上の留意点 ○評価 (評価方法)
課題	○防災意識アンケートをする。(1) ○オリエンテーションをする。(1) ・自分たちの防災意識に気付く。 ・防災の重要性とは何だろう。	・今までやってきた防災学習や避難訓練について振り返り、防災についての学習意欲を高められるようにする。
整理	○アンケート結果を振り返り、防災上の諸課題について考えをまとめる。(1) ・何も考えずに避難訓練をしていた。 ・自分だけは助かるだろうと安易な気持ちをもっていた。 ・命を守るために何をすべきか考えなくてはならない。	・慣習化された防災訓練の問題点に気づき、今後どのような学習を進めるべきか考えさせ、今後の学習課題へつなげるようにする。 ○ 知・技 ① (ワークシート)
課題情報	課題① 自分の命を守るために、適切な退避行動や危険箇所の見極めができるようになる	編 P174 指導計画作成の留意事項(3) ・教科横断的な視点として、各教科の授業で学んだことに触れる。 【理科】地震と災害…地震の発生と揺れが伝わる仕組み、初期微動継続時間や緊急地震速報の利用について振り返る。 【数学科】比例と反比例…地震のゆれの予測のしくみについて知る。 【社会科】震災から命を守る…過去の震災から学ぶ。
整理	○自助とは何かを知る。(1) ・危ないものから離れると良い。 ・机の下に隠れると良い。 ・緊急地震速報で対策をする。 ○自分の身を守る「3つのポーズ」を学ぶ。(2) ○「3つのない」の視点で、身の周りの危険箇所を発見する。(2) ・窓が割れるかもしれない。 ・固定していないものが移動してくるかもしれない。	・緊急地震速報や初期微動に気が付いてからの素早く適切な退避行動の重要性を理解できるようにする。 ・ショート訓練を実施する。
表現	○ショート訓練の活動を振り返り、よりよい行動を考え、意見交換をする。(2) ・教室にいて机があったので、サルのポーズをとり、身を守った。 ・廊下にいたので、割れるかもしれない窓から離れて、ダンゴムシのポーズで身を守った。 ・校庭にいたので、落下物から身を守るために、校舎から離れてダンゴムシのポーズをとった。 ・学校では落ち着いてできたけど、家で発生したらどうしたら良いだろうか。	編 P174 指導計画作成の留意事項(1) ・実際の緊急地震速報音声を流すとき、配慮を要する生徒がいる場合は、個別に事前に伝えておく等の対応をする。 事例のポイント① 実践例1を参照 ・実施後は必ず個人または班ごとのグループ発表により、自らの行動について振り返りを行う。 ○ 知・技 ② (活動の様子) ○ 態 ① (活動の様子・振り返り)
	課題② 家族の防災計画書を作ろう	・自助として、防災グッズ等の必要な備えや対策を考えることができるようにする。

<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>表現</p>	<p>○被災時に必要な備えにはどのようなものがあるか考える。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料や懐中電灯があると良い。 ・水がないと不便だと思う。 <p>○役割分担をして、ICT端末を使って調べる。(1)</p> <p>○調べた情報をグループワークで共有し、整理する。ICT端末を使ってグループごとにスライドにまとめる。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像していたより、備えるべきものがたくさんあることに気が付いた。 <p>○班ごとにスライド発表を行う。(1)</p> <p>○家庭の防災計画書を作成する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族で必要なことを考えよう。 ・防災グッズだけでなく、家具の固定など全般的に見直そう。 ・いざというときは、防災グッズを持って、避難所での生活にも備えよう。 <p>○ワークシートや班の発表スライドのまとめから、活動を振り返る。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な対策を、トイレ・食料・物資・家具の固定・家族との連絡方法の5つのジャンルに分け、グループで分担する。 ・ICT端末を活用し、自治体や過去の被災経験にもとづく必要な備えを調べ、まとめるようにする。 <p>○思・判・表② (ICT端末の活用)</p> <p>編 P174 指導計画作成の留意事項(2)</p> <p>事例のポイント② 実践例2を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の防災教育の授業で学んだことを模範解答で終わらせず実行に移すように促す。 ・宿題で、家庭の防災計画書を使って家族で防災会議を開き、授業ワークシートの保護者のコメント欄を記入してもらう。 <p>○思・判・表④ (ワークシート・発表)</p>
<p>情報</p> <p>課題</p> <p>情報整理</p> <p>表現</p>	<p>○共助とは何かを知る。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合うことは大切。 ・大人が何とかしてくれるのではないか。 <p>課題③ 避難所の運営方法について考えよう</p> <p>○避難所を運営する方法を考える。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生としてできることは何だろう。 ・自分も役に立てるようになりたい。 <p>○想定されるトラブルを4コマ漫画でイメージして、グループごとに解決するための方法を調べ、話し合いまとめる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく説明するって難しい。 ・理解してくれず、クレームがでるかもしれない。 ・別の表現の方がより伝わりやすいのではないかな。 <p>○グループワーク(4コマ漫画)の結果を発表する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ役割だけど、解決方法が違う。 ・自分たちの班もいいけど、他の班の伝え方もわかりやすく参考になる。 ・実際に被災したときを想定して考えることができて良かった。 <p>○活動を振り返る。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共助の視点で、今できることだけでなく、将来地域を担う中心として助け合いの重要性を理解できるようにする。 ・避難所運営の役割を、庶務班・情報班・食料物資班・衛生班・学校再開準備班・ボランティア班に分けて説明し、それぞれの立場を明確にする。 ・生徒が親しみやすくイメージのしやすい4コマ漫画を教材として活用する。 <p>編 P174 指導計画作成の留意事項(2)</p> <p>○思・判・表③ (話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所での生活や運営上の課題について、自分事として捉え、解決方法を生徒が自ら考えて判断し、当事者の立場にたって発言する場を設定する。 ・簡潔にわかりやすいセリフを発表し合うことで、よりよい伝え方に気付けるようにする。 <p>事例のポイント③ 実践例3を参照</p> <p>○思・判・表④ (ワークシート・発表)</p> <p>○態② (発表)</p>
<p>課題情報</p>	<p>課題④ 防災小説を作成し、助かるための行動について考えよう</p> <p>○自助や共助の視点で行った今までの学習を振り返り、被災時に助かるために必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習の振り返りから、災害が発生した場合に「自助」としてどのように行動するか、「共助」として助け合うために何をすべきかを思い出せるようにする。

整理	<p>なことを考える。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助や共助は大切である。 <p>○ワークシートを作成し、助かるために必要なことを整理する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は一人であるかもしれない。 ・家族は無事だろうか。 ・火災が発生するかもしれない。 	<p>○思・判・表①(活動の様子・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害を自分事として捉えるために、被災した日時・場所・環境などをリアルに想定し、登場する人物や建物などは自分の地域に実際に存在するものを使うようにする。 ・最後を必ずハッピーエンドで完結させることで、助かるために主体的に行動することの大切さを実感できるようにする。
表現	<p>○防災小説を執筆する。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助かるためにどうやって行動すればよいのだろう。 <p>○防災小説をクラスで発表し合う。(2)</p> <p>○クラス代表生徒の作品を、学年集会で発表し合う。(1)</p>	<p>○思・判・表④(作品・発表)</p>
整理	<p>○学校代表の生徒の作品を、全国の中学生とオンラインで交流し、発表し合う。(2)</p> <p>○地域による防災に対する意識の違いを知り、防災について振り返る。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉は津波の心配は少ないけど、他の地域は津波対策が重要だと実感した。 	<p>事例のポイント④ 実践例4を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT端末を活用して、防災小説に取り組んでいる全国の中学校とオンラインで交流し、各校の発表を通して、地域による防災に対する意識の違いを知り、防災小説の学びを深めるようにする。
表現	<p>○これまでの活動を振り返る。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる地域を守るためにできることをこれからも考え続けよう。 	<p>○知・技③(振り返り)</p> <p>○態③(振り返り)</p>

7 実践例

【実践例1】 自助の視点 命を守る「3つのポーズ」「3つのない」を知り、自ら危険箇所に気づき考え行動し、最適な退避行動についての「まとめ・表現」

(1) ねらい

発災時に、教員だけで生徒の命と安全を守ることは困難である。そこで「自助」の基本的な考えとして、自分の身を自分で守る方法を防災教育の基礎として定着させる。

(2) 活動の内容

①自分の身を守る「3つのポーズ」

自分の身を守る3つのポーズを学ぶ。姿勢のポイントや要点について考え、くり返し練習をすることで、地震の揺れを感じたり、緊急地震速報を聞いた瞬間に、自分で判断して避難行動をとることができるように工夫し取り組んでいる。避難訓練やショート訓練実施後は必ず個人または班ごとのグループ発表により、自らの行動について振り返りを行い、適切に判断し行動できたかについてまとめを行う。

<p>机がある時の姿勢 「サルのポーズ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下に入り、膝を床につける。 ・かならず頭を守る。 ・机の足の上のほうをななめに握る。 	<p>机がない時の姿勢 「ダンゴムシのポーズ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険なものから頭をできるだけ離す。 ・手を後頭部に当てて頭を守る。 ・ひざ・ひじ・足のこうをゆかにつける。 	<p>火災で煙が出た時の姿勢 「アライグマのポーズ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低い姿勢で、壁づたいに避難する。 ・衣類や濡れたタオルなどで口と鼻を押えて、煙を吸わないようにする。
--	--	---



②「3つのない」の視点で、身の周りの危険箇所を発見

「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」の3つのないを探す視点を意識することで、身の周りの危険箇所を発見する。資料として普段の学校生活の写真を使い、危険と思う箇所に○をつけさせることで、自分事として考えて、主体的に学習に取り組むことができる。○の大きさで、大きな危険・小さな危険に分類して、優先順位を決め、適切な避難行動に結びつける。○をつけた箇所と、つけた理由については、班ごとに意見をまとめ、発表し合うことで、自分とは違う視点や意見に気付き、それを受け入れながら、協働して学ぶことで自助の能力を高め合う。



③ショート訓練の実施

ショート訓練とは、朝の会や帰りの会、休み時間や授業中などの学校生活の様々な場面を利用して、緊急地震速報のチャイム音を利用した退避行動のみを実践する訓練である。1回10分ほどの訓練を短期間に集中して実施することで、状況に応じた適切な退避行動を自ら考え、判断力を生徒に身に付けさせることが目的である。実施後には、必ず個人または班ごとのグループ発表により、クラス単位で反省会を行う。自らの行動について振り返りを行い、なぜその退避行動をとったのかを発表することで、適切に判断し行動できたかについてのまとめにつながる。

ショート訓練の実践例【昼休み】

	活動内容	生徒の動き	指導上の留意点
2分	1. 緊急放送（教頭） 「緊急放送 訓練、訓練。 緊急地震速報。」自動音声	緊急放送に反応して、各自で考えてすぐに退避行動をとる。	○教員は、生徒の動きの様子を観察し、振り返り際の質問を考える。 ○特に、「3つのない」「3つのポーズ」の知識を基に、適切に判断できたかを発表する。 ①教師による質問（数名任意指名） ②小グループでの反省会 →発表により全体で共有する。
3分	2. 教室に戻り、着席をする。 外に出ている生徒は、急いで教室に戻る。	※「3つのない」、「3つのポーズ」を意識する。	
5分	3. 振り返りを行う。		
【振り返り発問例】 「○○君は、なぜその場所に避難をしたのか？」 「どのような退避行動をとったのか？それはなぜか？」 「この場所で、地震があった場合どんな危険があると考えられるか？」			

ショート訓練の様子



教室にて



廊下にて

トイレにて



校庭にて



生徒の変容

防災の基本となる自助として、「3つのない」、「3つのポーズ」を学んだ。自ら考え行動し、表現する実践を通して、全ての生徒が危険箇所を判断し、適切な退避行動をとることができるようになった。また、自分が行った退避行動を振り返り、互いに発表することで、回数を重ねるごとに、適切な行動がとれるように成長している。

【実践例2】自助の視点 家庭の防災を見直し、ICT端末を使って調べ、グループワークで共有・発表する「まとめ・表現」

(1) ねらい

「自助」の能力を高めるために、食料や物資の備蓄、家具の固定や家族との連絡の取り方などについて考えることで、家庭の防災計画を作成し、家庭の防災に対する意識向上を図る。それらの活動を通して、相互理解の心を育てる。

(2) 活動の内容

災害時の被害状況を想定し、必要な対策についてICT端末を使って調べ、グループワークで共有、発表を行う。対策をトイレ・食料・物資・家具の固定・家族との連絡方法の5つのジャンルに分け、それぞれの課題に取り組むことで家庭の防災計画書を作り上げる。

授業後は宿題として防災計画書を持ち帰り、各家庭で防災会議を開き、具体的な行動まで結びつける。

(3) 授業の様子

課題『家族の防災計画書を作ろう』

①被災時に必要な備えについて考える。

必要な対策として、トイレ・食料・物資・家具の固定・家族との連絡方法の5つに役割分担をする。

②個人でワークシートに取り組む。

③ICT端末を活用し、調べる。

情報をグループワークで共有し、スライドにまとめる。



④役割分担の班ごとにICT端末を用いて発表を行う。



⑤授業での学びをもとに、家庭の防災計画書として家庭に持ち帰り、家族で防災会議を開く。

○物資編

【MISSION】
大災害の際に必要となる、食料や物資、家具の固定などについて、事前に調べ、家族で共有し、発表を行う。

【対策】 家族一人ひとりに役割を分担し、必要な物資や家具の固定について、事前に調べ、家族で共有し、発表を行う。

○食料編

【MISSION】
災害時の食料の確保について、事前に調べ、家族で共有し、発表を行う。

【対策】 足りない食料を事前に調べ、家族で共有し、発表を行う。

○家具の固定編

【MISSION】
災害時の家具の固定について、事前に調べ、家族で共有し、発表を行う。

【対策】 部屋ごとに危険な家具を見つけて対策をする。

この部屋	家具	対策

【緊急用トイレの作り方】

1. 携帯トイレがない場合は、ポリ袋と新聞紙で緊急用トイレをつくることもできます。

2. ポリ袋を使用し、新聞紙を詰めます。

3. 用を足した後、汚ものを上からかけ、拭き取ります。

家 防災計画書

(年 月 作成)

<緊急連絡先>

だれ	電話番号	その他
自分		

1年 組 番 氏名

生徒の変容

事前の防災意識アンケートでは、家族で防災について話し合っている家庭は1割以下だったが、授業を通して家庭で防災について話し合う機会を得たり、改めて災害に向けての備えを見直したりする家庭が増えた。災害を生き残るために必要な知識だけでなく、家族や身の回りの人、他者を理解することの大切さに気付くことができた。

【実践例3】共助の視点 地域の防災や災害時の助け合いについて、避難所運営4コマ漫画を作成し、発表する活動を通して高め合うための「まとめ・表現」

(1) ねらい

「共助」の能力を高めるために、地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解させる。まとめ・表現の工夫として、生徒が親しみやすくイメージしやすい4コマ漫画を取り入れ、被災時の避難所での生活や運営上の課題について、生徒が自ら考えて判断し、当事者の立場にたって発言する場を設定することで、防災意識を高める。

(2) 活動の内容

地域の防災や災害時の助け合い、共助の重要性を理解するため、被災時の避難所生活や運営上の課題について学習をする。避難所運営の役割は、庶務班・情報班・食料物資班・衛生班・学校再開準備班・ボランティア班に分けられる。生徒はそれぞれの役割に与えられた4コマ漫画の課題に対して、4コマ目でどのような答えを出すかについてグループで話し合い、発表を行う。簡潔にわかりやすいセリフを考え、発表し合うことで、よりよい伝え方に気付かせる。実際の避難所生活の体験談を参考資料として活用することで、いろいろな視点を持たせ、学びを深め合うことができる。

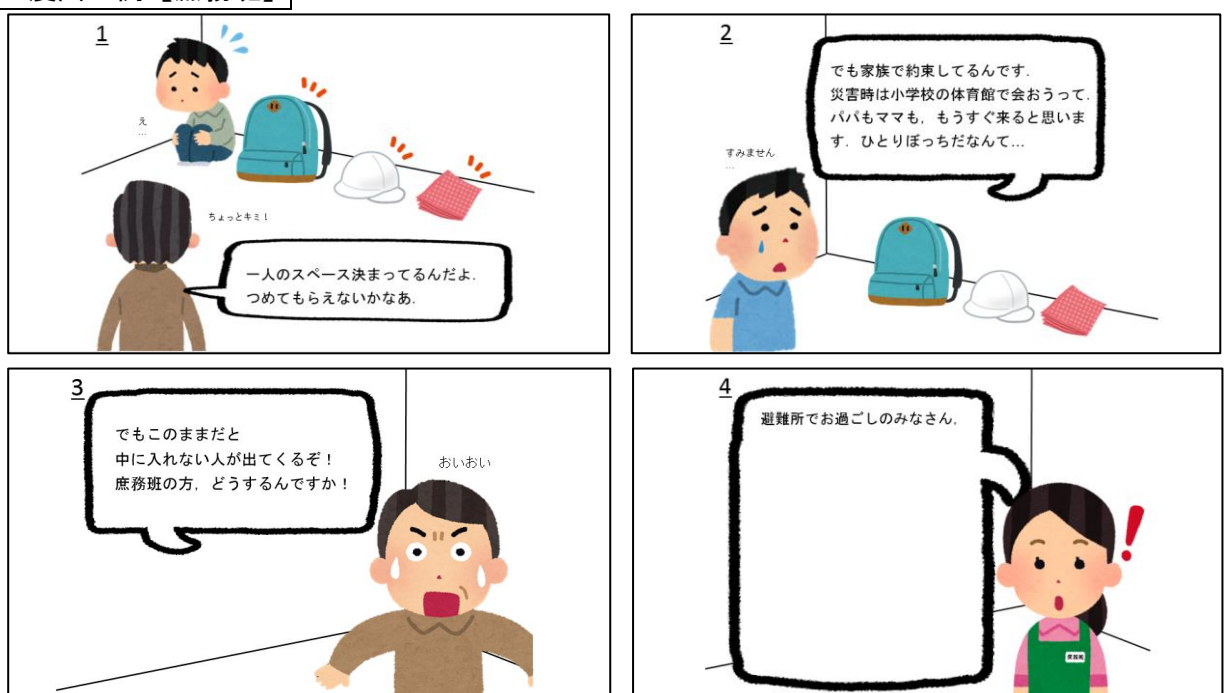
(3) 授業の様子

課題『避難所の運営方法について考えよう』

- ①役割ごとに異なるワークシートを配布。個人での考えをまとめる。
- ②個人の考えをもとに、分担された役割の班で話し合う。



4コマ漫画の例【庶務班】





③途中で「ヒントカード（体験談）」を配布。

実際に避難所で発生したトラブルや、あって嬉しかったことなど、セリフを考えるヒントになるカードを配布。考えを深めて、よりよい解決方法を追究していく。

さっきの考えで良いと思ったけれど、この体験談を読むと、問題が発生したときに対応できないかもしれない・・・



ヒントカードの例【庶務班】

<p><体験談1> ぎゅうぎゅう詰めの避難所生活</p> <p>避難所での問題で上位にくるのが、プライバシーがないことと狭さです。幼児と一緒に家族を除いて体育館で寝泊りしてもらい、一人当たりのスペースは2.5m×80cmでした。枕元（または足元）に着替えや飲み物などの個人の物を置くために身長より長めに場所を取りましたが幅は80cm程度です。</p> <p>出典*東日本大震災、体育館避難所で起きたこと</p>	<p><体験談3> 妊娠中、やっぱり気になる周りの目</p> <p>避難所での生活を2か月ほどしたが、妊娠中ということもあり、家族6人で、6畳一間を貸してもらえたが、周りへの気づかいや、家族への気づかいで、精神的にゆっくりとできなかった。</p>  <p>出典*東京都子どもを守る災害対策検討会</p>	<p><体験談5> 通路がない！歩けない！</p> <p>車椅子を使用している人や杖を使用しなければ一人で歩行できない人にとっては、スペースが十分に確保されていないことにより、一度座ってしまうとそこから立ち上がれない、移動できないといった問題が生じてしまいます。いざ歩きたそうと思っても、避難者の荷物等が一面に広がり通路が明確になっていないと、どう移動していったらよいか分かりませんでした。</p> <p>出典*バリアだらけの避難所生活</p>
<p><体験談2> 必要だった子供の遊び場</p> <p>避難所での子どもの居場所。子どもはストレスがたまり、動きだすと周囲の目が気になった。学校の先生が、早々に子どもたちの対応策をとってくれて、助かった。</p>  <p>出典*東京都子どもを守る災害対策検討会</p>	<p><体験談4> 必要だった、障害をもつ方への配慮</p> <p>東日本大震災発生後の避難所では、心身に障害を抱えるお子さんだけでなく、そばに付き添う親御さんも大変な苦労を強いられました。周囲の理解を得られず、車での寝泊りをせざるを得なかったり、食料の配給が届かず不安な毎日を過ごしたりという人も少なくなかったようです。</p> <p>出典*心身に障害を抱えるお子さんの避難所生活</p>	<p><体験談6> 笑い飛ばした、じいさんのいびき</p> <p>よそでは『じい、いびきがうるさくて寝れねえんだよ』なんて、若者がじいさんをとちめて新聞沙汰になったことがあったんですよ。ここにも、二階のそれぞれの部屋にいびきの横綱がいるわけですよ。でも、『昨日はうちの部屋の横綱は横綱相撲でしたよ〜、わっはっは』ですよ。それで笑ってお終い。どうしても寝付けないって人には、耳栓を渡したりしてね。</p> <p>出典*頓所直人『笑う、避難所』（集英社、2012）</p>

④グループワークで考えた4コマ目のセリフと、このように考えた理由を発表する。



避難所でお過ごしのみなさん、まだ避難所の中に入れない方がたくさんいらっしゃいます。スペースをつめていただけませんか。1人あたりのプライベートスペースはこちらのように確保し・・・

生徒の変容

授業を通して、正解のない問いを考える難しさや、いろいろな人の事情を理解することの大切さに気づき、学ぶことができた。運営する人の立場にたつて自分事として捉え、表現することで、地域の防災や災害時の助け合い、共助の重要性についての理解を深めることができた。避難所運営についての学びが、防災小説の執筆に共助の視点を与える効果が期待される。

【実践例4】オンラインで全国のお他地域の学校と交流し、地域による違いを発表し、互いに学び高め合うための「まとめ・表現」

(1) ねらい

現状の防災力で災害を迎えた場合に起きるであろう様々な状況の小説を書くことを通して、現実的にどんな防災の取組をすれば良いかを事前に考え、防災意識を高める。

(2) 活動の内容

防災小説とは、未来の被災した自分を主人公として、災害が発生した場合に「自助」としてどのように行動するか、そして「共助」として助け合うために何をすべきかを小説に書く学習を通して災害を自分事として捉えさせる活動である。被災した日時・場所・環境などをリアルに想定し、登場する人物や建物などは自分の地域に実際に存在するものを登場させることで、事前の準備や当事者意識を育成することが目的となっている。自分の被災を文章で表現し、あらかじめリアルに想像し、経験することで、実際に災害が起こった場合に、より冷静に考えることがで

きるようになるという効果が期待されている。この小説を作成する際のポイントとして、最後を必ずハッピーエンドで完結させることがある。「こうしておいたから助かった」ということを考え小説として表現することで、主体的に行動することの大切さを実感することができる。

また、クラスや学年での発表のみではなく、ICT端末を活用して、防災小説に取り組んでいる全国の中学校とオンラインで交流発表会を行う。各校の代表による発表を通して、地域による防災に対する意識の違いを知り、防災小説の学びを深めることが期待される。

(3) 小説を作成するための想定

首都直下型地震が起こったことを想定し、その時、自分はどうのような思考をし、行動をとるのか考えて小説にする。予め、首都直下型地震の起こる日時や時刻、被害を共有する。

小説作成の被害想定を共有部分（令和3年度の例）

(1) 地震発生日時…令和3年9月27日（月）16時00分 気温…31℃ 天候…晴天

(2) 被害 ①川越市の全域で震度6弱から震度7 ②避難者…12,030人

③全壊する家屋…3,359棟 半壊する家屋…8,065棟 消失する家屋…1,069棟

④停電はほぼ全域で1週間は支障有り、水道は1ヶ月断水、ガスは2ヶ月での復旧を目標。

⑤中学校の体育館を、避難所として開放する

(4) 授業の様子

①学年代表発表

防災学習の前は、防災について考えても具体的に何をすれば良いのかははっきりしなかったが、具体的にやることが見えてきた。小説として自らの体験として考えることで意識を高めることができた。地域との関わりを大切に、しっかりと防災に取り組みたい。



小学生の妹を学童へ迎えに行かなくてはいけないことや、あらかじめ家族会議で決めていた地域の避難所のことを思い出して書いた。自分がやらなければならないことがはっきりとした。最後は、決めていた避難所で無事に家族と再会できるハッピーエンドで終わらせた。

②全国オンライン発表

ICT端末を活用し、防災小説に取り組んでいる全国の中学校とオンラインで交流発表会を実施。南海トラフ地震によって発生する津波や首都直下型地震による家屋の倒壊など、その地域ごとの防災意識の違いについて多くの学びを得ることができた。



生徒の変容

事前と事後で防災意識アンケートを比較したところ、首都直下型地震が起きたときに、身の回りに起こることについて、「知っている」と答えた生徒は、授業後に大幅に増加した。防災小説を執筆することで、災害を自分事として捉えることができた成果である。また、防災小説に取り組んでいる全国の中学校とオンラインで交流発表会を行い、各校の代表による発表を通して、地域による防災に対する意識の違いを知り、防災に対する学びを深めることができた。特に、埼玉県は海に面していないため、津波の被害を想定した防災小説からは大きな学びを得ることができた。